

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390500043		
法人名	株式会社 アメニティサービス社		
事業所名	グループホーム あいあい		
所在地	岡山県笠岡市白石島455番地		
自己評価作成日	平成23年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390500043&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成24年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日に表情を変える海を眺めながら、のんびり、ゆったりした時間を過ごしていただけます。 ・ 愛に溢れたおもてなしの心で入居者に接しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成20年11月このホームを開設してから丸3年経過した。社長の奥さんが管理者としてホームのケア及びサービス提供についてのケアマネージメントを司ってから運営に必要なポイントが一つひとつとまってきた。その一つの大きなポイントとして、利用者や家族の本当の気持ちをしっかり把握していこうとしている。単なる状態の把握でなく、その人がどんな気持ちや悩みを持っているのか、会話の奥にあるものを察知して、働き甲斐を職員が身につける事である。事務所に“ロビーでの利用者や家族との三分間会話”という貼り紙があり、会話していくプロセスの一例が記されていた。しっかりとやっているなあと思った。昨年8月からきた新しいケアマネージャーも利用者の状態や会話だけを鵜のみするのではなく、その奥にある要因や原因を探ろうとしていこうとする気持ちも知る事が出来た。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し、度々振り返り、意識を高め実践するよう努めています。	「もてなしの心を大切に」という職員の心掛けに対し、「あなたの態度はおかしんじゃないの」「もっと言葉に気をつけなさいといけないんじゃないの」と職員同士で気が付いた時に注意し合っている。職員のセルフチェックが効いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	島内の行事、催物に一人でも多く参加できるように企画し努力しています。	島では老々介護や独居老人等多くおり、周りの人も皆心配している。グループホームの方も「ショートステイでホームを使わせてもらえないの」と嬉しい事、楽しい事だけでなく、生活の心配を投げかけてくる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	質問があれば説明したり、早目に専門の病院での検査を勧めたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内の行事と組み合わせ実施しているが、年6回開催の目標まだ遠い状況です。 (22・目標計画継続)	市介護保険課職員、民生委員、中学校長、診療所医師、海洋センター職員、公民館長、家族代表等島のあらゆる分野の人々が参加して運営推進会議を開催しているが、年6回開催までに少し至っていない。	来年度から運営推進会議を年6回確実に開催できるよう、色々な議題や課題を考えて、年間を通して計画と実施をするようにしましょう。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課と連絡を取りながら取り組んできました。	このグループホームの存在意義が島全体の人に認知され、グループホームをもっと幅広く利用できないか、認知症の人に接する為の相談もよくある。これらの意見や意向を基に市とも相談や意見交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を発足し、ホーム全体の意識を高め、取り組んでいます。	昨年笠岡市の指導もあって身体拘束に関する研修を始めた。言葉や行動からくる拘束に該当する事で職員に注意すると退職に結び付く事もあったが、理解できない職員は退職していったケースもあった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされることがないように常に注意を払っています。 スタッフ間でコミュニケーションを図り意識を高めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会、地域包括支援センターとの連携に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時によく話し合い、理解、納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の希望、不満、家族の意見、要望等を聞き、受け入れるように努めています。	利用者本人の意向や希望は出来るだけ選択式の質問やヒントを掲示して聞き取ったり、察知するようにしている。家族とは面会時や連絡時を利用して出来るだけ家族の気持ちを察し取る努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを頻回に行い、職員の意見や提案を聞いている。	今回の自己評価は職員全員に個別に書いてもらい、それをまとめた。職員は40～60代の人で気軽に言い合える仲にある。職員には仕事は時間内で行い、サービス残業はしないよう指導している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	サービス残業のないように、休日振替等により調整しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人以外の研修を取り入れ、法人内にその益を反映させています。 勤務時間の調整を図りながら積極的に進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な連携の研修があるので交流の機会を増やしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で得た情報をスタッフ間で共有し、不安や混乱を少しでも減らしていくよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時、契約締結時に十分話し合うように努めています。 問題が生じた場合は話し合いの機会を増やし、理解を深めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を把握して理解を深め、支援に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で感謝の言葉を掛け、お互いに支えられていることを示すように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最低でも月に1回の面会を作っていたくようお願いしている。面会が無理な家族には電話を掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他の島からの入居者も居られるので、情報をできるだけ多く取り入れ支援に努めています。	利用者は色々な島出身者や住民であるが、殆んどの方は大阪や都会で仕事をしてきた人が多い。色々な仕事や人生を過ごしてきた人々なので、その人に応じた対応をしていかなければ仲良く生活できない。その共通出来る事は食べることで、食事を一番大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの好みを把握し大切にし、時にはスタッフが間に入りながら関わり合い、支え合えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族に運営推進委員になっていただいています。家族からの質問には丁寧に答えるようにし、ご本人の様子を時々尋ねながら関係性を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本位を常に考え、スタッフの気付きを基に必要なに応じてミーティングをして検討しています。	今日は利用者の娘さんが訪問して、午前中は利用者の部屋で、そして昼食は食堂に早くから利用者と一緒に出て、他の利用者や職員で楽しく賑やかに話をしながら食事をしていた。この様子を見ると、職員と本人及び家族の意思疎通は普通の家族以上にきちっと出来ている事が分かる。	利用者や家族の気持や意向を知ろうとしている努力は認める事が出来る。これを更に実効あるものにできれば、記録やプランが具体的になり、すべてが有効なものに出来ると思う。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、代理人(社協や地域包括)のケアマネージャーからの情報提供により、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所から1ヶ月は出来るだけ細かい行動記録をとり、理解を深めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(入居者)家族・関係者との話し合いや意見交換をしている。 介護計画に基づいてのケアを心掛け、モニタリングしている。 (22・目標計画達成)	昨年8月から新しいケアマネージャーが来て、記録やケアプランの作成について新しい空気を注ぎ込んでいる最中だった。グループホームで長く経験をした人で、利用者の状態を観察するだけでなく、その要因又は原因を見付ける事が肝心と言う言葉に次のステップを期待したい。	利用者の生活の状態を捉えて記録やプランが展開されている。是非この状態の起きる原因又は要因を見出し、それをプランに展開すると具体的な支援内容につながっていき、プランが具体的且つ客観的になると思う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々の必要に応じたケアを実践するために記録の様式を変え、スタッフ間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の面会時、宿泊や食事を共にして頂く等、柔軟な支援を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	島の駐在所の警察の方、島の玄関口の回酒店の方等に協力して頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	島に住んでおられる診療所の医師が2週間毎に往診して下さっています。	利用者は島の診療所の医師に日常の診療医として切り換えてもらっている。利用者も家族も診療所の医師を信頼していて、このホームでの生活が安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在はホームに看護師はいません。診療所と24時間連絡が取れるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本土の病院に連携をお願いしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアを受け入れています。医師と家族の話し合いを密にして頂き、入居者の安心、安楽を優先させるよう取り組んでいます。	今年度も年末と年始にターミナルケアをして看取りをした。提携医(診療所の医師)は、生活の場で最期まで生きて安楽死できるようにと言う思いなので、利用者も家族も信頼している。職員もターミナルケアに接し、命の尊さも体感できている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成したり、有益な出版物を利用し、スタッフの意識は高めています。定期的な訓練は出来ていません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練を行い、スタッフの意識を高めています。島内の消防団に協力を要請しています。	島内の消防団の協力も得て避難・消火訓練をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への関わり方や言葉掛けに十分注意を払うよう努めています。	トイレや脱衣場での脱衣時、利用者への関わり方、声のかけ方等職員が失礼の無い態度に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや希望を把握できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを優先し、対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みを知るよう努め、スタッフ間で情報を共有し、支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・配膳など出来るだけ共に行うようにしている。 スタッフも共に食卓につき、楽しく食事ができるように努めています。	食堂が独立した立地にあるが、準備時から利用者は食堂に集まって、準備や調理、片付けを手伝い、皆で楽しい食事をする。2人は個室で食べる。それぞれが満足して食べられる環境を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録し、変化に対応しています。 入居者の好みや状態を把握し、食事形態を変えるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい、義歯洗浄、歯磨き等、入居者一人ひとりに応じたケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターン、習慣を把握し、記録し、状態の変化に目ざとく対応しています。	一人ひとりの排泄に関する情報をしっかり把握して、少しでも排泄機能を満たせようとする気持ちがうかがえる。トイレでしっかり排泄していけるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の記録、ホーム日誌に排便状況を記入し、加えて1ヶ月の状況が一目で分かるように排便チェック表を作成し留意している。献立も野菜を多く摂るよう工夫し、粉末の食物繊維やオリゴ糖等も使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間に2回以上の入浴の予定を立て、入居者の体調と気分に合わせている。 (22・目標計画達成)	バスタブにつかって入浴出来る人はゆっくりお風呂に入ってもらうが、入れない人にはシャワー浴してもらう。足のマッサージ、爪切り等足の手入れをしっかりとしている。健康の第一歩である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく休んで頂けるようエアコンで温度を調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬局からの説明を聞き、「薬の事典」等も活用し、情報を共有するように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備・片付け共日課になっているが、負担にならないよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩はいつでも自由に行ってもらっています。遠方へはスタッフと車で出掛けます。	このホームの表は一面の砂浜、海であり、天候が良ければ自然に触れるには岡山県一番の環境にある。ホームの前にベンチがあり、利用者は朝からこの光景に接し生活出来る。島内の名所、学校等色んなところへも出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は自由にしてもらっています。島ということもあり買物をする場所がないのが現状ですが、機会あれば島外へ車を出掛け、買物をすることもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅欲求が強くなると家族の声を聞きたくなるので、自由に電話を掛けてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、鉢植えの植物を置いたりしています。 空気清浄機を作動させ、感染予防にも努めています。	旅館の造りをそのまま使っているため、リビングルームは広い日本間風の宴会場と食器棚に囲まれた食堂そして広い玄関ホールと利用者は好きずきに使っている。そして屋外には海水浴場がある。利用者は好きなどころをその時の気分で使える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者のお気に入りの場所があるので、尊重し対応しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人の意向を尊重し、居心地良く過ごせるよう配慮している。花を生けたり、写真を壁に貼ったりしている。	居室はもとの客間、広々としてそこに備え付の収納や整理棚等がある。それぞれの心身の状態に応じてゆったりと自分の部屋を使えるのがこのホームのハード面である。居室に居てもゆったりとした気分で過ごせる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺は必要に応じて増設したり、水道の栓をレバーにして使いやすいようにしています。		